

ミャンマーの未来を築くーヤンゴン経済大学

クリスティーヌ・ラガルド
国際通貨基金 専務理事

2013年12月7日、ヤンゴン

皆さん、こんにちは—*min-galaba!* ヤンゴン経済大学を訪問する機会に恵まれ大変光栄です。Khin Ning Oo 総長の温かい歓迎の言葉に感謝いたします。また、本日司会を務めてくださる Zaw Oo 博士にも御礼申し上げます。

今日ミャンマーは、約束と可能性、繁栄に溢れた新たな世界の扉を前にしています。また、世界そして世界が差し出すあらゆるものに通ずる偉大な目覚めの時にあります。

皆さんの隣人であるジャワハルラル・ネルーはかつて自らの国についてこう語りました。「時は来る。時とは歴史上めったに訪れるものではなく、古い世界から新しい世界に足を踏み出し、ひとつの時代が終わりを迎え、長い間抑圧された国の魂が言葉を見つけた時に来るのである」

世界経済において革新の中心であるアジアの鼓動に位置するミャンマーにも、そのような時が訪れたと言えます。ミャンマーが描いているのは、驚くほど短期間で、5億以上もの人々が貧困という鎖から機会を作り出すツールを生み出したというアジアの物語の次の章です。

アジアの真の娘であるミャンマーも、短期間で多くを成し遂げました。経済の離陸の礎となるマクロ経済の安定性を既に確立しています。確かに、依然として脆弱であり制度基盤の強化は不可欠ですが、基礎工事は既に終わったと言えるでしょう。

これは政府による、管理変動相場制の導入、機能する外国為替市場の構築、為替制限の廃止、銀行貸し出しの自由化プロセスに着手といった最近の改革に端を発しています。

我々は既にその効果を見て取ることができます。昨年度の成長率は6%を越え今年には7%に達する勢いです。

次のステップは、これらの成果を基盤に、貧困を是正しミャンマーの全国民の輝かしい未来のために、持続的で力強い包摂的な成長という道を選択することです。

私はこの道筋には三つの重要な側面があると考えています。すなわち、未来に「投資」し、全ての人々を発展に「組み込み」、より広い地域経済への「統合」をいっそう進める、ということです。「投資」「組み込む」「統合」—これらについてこれからお話したいと思います。

1. 未来に投資する

では未来への投資からはじめましょう。

開放・拡大を進めるミャンマーには、現代の経済のための構造的基盤が必要となっています。これは喫緊の課題です。国民の4分の3は、電気を利用することができません。道路密度は、東南アジア諸国連合（ASEAN）の平均のわずか5分の1であり、既存の道路の約半分が雨季には通行不可能になります。電話普及率は10%に満たずインターネット利用は国民のわずか1%にとどまっています。

明日の経済に対応できない国民が余りにも多く存在することは明らかであり、ミャンマー政府の主な優先課題となっています。

同時に、ミャンマーのGDPの3分の1強・全雇用の半分以上を占める農業も忘れてはなりません。なによりも、人口の3分の2以上が生計を農業に頼っているのです。ですから、農業の生産性を高め、農民と農業に依存している人々の所得を引き上げることが重要です。これには、新しい種の開発や米業者の間の競争の推進といった政策が必要です。

未来への投資は、ミャンマーの人々、言うなればその健康と教育に投資することでもあります。現在、医療への支出は対GDP比わずか1.5%規模、そして教育への支出は1.7%にとどまっています。これはASEAN諸国の中で最低レベルです。

持続的開発は国民の健康を基盤とします。現状では、セーフティネットは余りにももろく、不健康がもたらす危険な影響や医療にかかる潜在的な壊滅的コストから国民を守ることができません。ミャンマーの医療支出の約87%が総じて自費扱いとなっています。これは東南アジアで最も高い数字です。

教育もまた発展の基盤です。教育はより明るい未来を築く唯一確実な足場です。ミャンマーのことわざにあるように「教育は、誰も盗むことができない金の壺」です。

子供の大半が初等教育課程にありますが、中等教育課程の就学率は半分強です。修了率もやはり低く、初等教育の中退率は25%にもなります。ミャンマーは、職業訓練により人々のスキルと経済に必要なスキルのマッチングを図るなど、この分野での取り組みを強化することができるのではないのでしょうか。

こういった分野への投資を行うには、全員が公平にミャンマーの発展に貢献できるよう課税対象の拡大が必要になるでしょう。現在、税収は対GDP比でわずか6%と世界でも最も低い水準にあり、改善の余地があります。明日の社会のより大きなプラスのために現時点でわずかな犠牲を負担することが必要です。

2. 発展に国民全員を組み込む

では、第2の点であるミャンマーの発展に全国民を組み込み、全ての人々が繁栄の波に共に確実に乗れるようにするという点についてお話ししましょう。

経済政策では常に貧しい人々を優遇する必要があります。これは倫理的側面からだけではなく経済面においてもプラスになるからです。厳しい貧困のなか、人々は日々を生きることで精一杯であり自らの可能性を開花させ社会に貢献することができない状態にあります。融資を受けスキルを習得すること—そして日々の生活さえも困難になっています。

不平等は、ミャンマーに必要な持続的な経済成長にもマイナスです。不平等により経済ショックに対する脆弱性が増し市民市場経済に不可欠な信頼を毀損します。

思い出してください、包摂的成長こそアジアの遺産です。日本とアジアの虎が牽引した経済ダイナミックスの第一の波は、力強い成長と、不平等が少ない状態—あるいはその改善—が両立できないわけではないということを証明しました。これは、ミャンマーのような国々の工程表（ロードマップ）となるでしょう。

ミャンマーが前進していることは間違いありません。貧困は2005年の32%から2010年は26%に改善しました。それでも、特に農村地帯や特定の地域で依然として高い状態にあります。

経済の進展に全ての国民を組み込むにあたっては、ジェンダーの側面も強くあります。この点に関しては「ミャンマー女性フォーラム」でお話させていただきました。

これについては明確な証拠があります。女性の地位向上は経済の改善を意味します。我々IMFはこれに関する研究を重ねました。労働市場における女性の参加が男性の

水準と並んだ場合、大幅なプラスの効果が期待できるでしょう。例えば、国民1人あたりの所得は南アジアで23%、東アジア及び太平洋地域で15%上昇するだろうと言われています。

ミャンマーでは、女性の労働力参加率は54%と男性を28パーセントポイント下回っています。それでも、女性の3分の2近くが働いていることにはなりますが、その多くはインフォーマルセクターに集中しています。つまり、収入が不安定な単純労働に集中しているのです。成人女性のうち中等教育以上を受けた人はわずか18%と、女性の地位向上をいっそう困難にしています。

ここに改善の余地があることは明らかです。ミャンマーのような途上国で貧困を削減する最善の策は女性に社会的な力をつける（エンパワーメント）だという人すらいます。なぜならこの女性たちが次世代を育成し育てる可能性が高いからです。

有名なミャンマーのことわざが言うように「世界の未来を形作るゆりかごを押す手は母親のもの」というわけです。

ミャンマーがあらゆる階層・分野の才能ある女性で溢れていることは私も知っています。そしてこの女性たちは貢献しリードする準備ができています。

「ミャンマー女性フォーラム」で私もこうしたすばらしい女性の方々と会う機会に恵まれ、そして彼女たちに勇気付けられ触発されました。

また、毎日太陽の下厳しい仕事に打ち込み、苦難を前にしても顔を上げ、子供たちのより良い生活のために節約に努め自らを犠牲にしている数百万の女性たちにも刺激を受けます。この女性たちこそミャンマーを支えておりミャンマーの未来です。

もう1点付け加えるべきことがあります。包摂とは基本的に公平とリンクしています。一人ひとりに人生で成功を収めるためのチャンスが与えられるべきであり、それは優れたコネクションを持った人のみに限定されるべきものではありません。

100年ほど前のミャンマーの成長の第一の波は、少数が支配する少数の一次産品が原動力となったものでした。こういった成長は一時的なもので長くは続かないでしょう。永続的な成長は、開放性、透明性、そして説明責任という原則に裏打ちされた公平な機会に立脚しているのです。

3. 地域経済への統合

では、第3のポイントである地域経済への統合の推進についてお話ししましょう。

皆さんよくご存知のように、統合はアジアらしい選択です。アジアは常に外向き志向でありより広い世界で成功を求めてきました。その開放性こそがアジアの成功への鍵となっています。

ミャンマーの、より広いアジア経済への統合は恵まれた時期に行われると言えます。かつてないほどアジアは前進しています。既に世界経済で最もダイナミックな中心地としての地位を確立したアジア途上国は、2050年までに世界GDPの約半分を占めるだろうという推測もあります。また、記録的ペースで伸びている世界の中流階級を中心にもなるでしょう。

「皆さんの」世界であり、「皆さんの」経済、そして「皆さんの」運命なのです。

この新しい世界経済は、かつてないほど相互の結びついたものになるでしょう。既に現在これを見て取ることができます。ほんのわずかなさざなみも世界中に鳴り響きます—往々にしてそのスピードは速く、予想もしない方法で。そしてその結果も不透明です。世界金融危機がどのように展開したか、思い出してみてください。

つまり、開放性と協調がこれまで以上に重要になります。我々の運命は結びついているのです。ですから、共に上昇するために連携しなければならないのです。

ミャンマーの有名なことわざが言うように「葦が島々に依存しているように、島々は葦に依存」しています。

ミャンマーは既に、ASEANの議長を努め「東南アジア競技大会」の開催準備を進めるなど、開放性と協調へのコミットメントを示しています。

2015年に設立される予定の「ASEAN経済共同体」は、統合を全く新しいレベルにまで引き上げ、ミャンマーをはじめとする成長軌道にある国々に限らない可能性を提示するでしょう。

ミャンマーは大きな利点に恵まれています。ASEANというひとつの家族に加わる用意ができていて、6,000万の人々の母国です。その国民の約3分の1が14歳未満であり、ダイナミズムと若いエネルギーに満ち溢れています。ASEANではインドネシアに続く大陸東南アジア第2の大きさを誇っています。豊富な天然資源に恵まれ地理的には、インドと中国という世界経済の中心である2カ国が交差する羨むべき位置にあります。

ASEAMの統合を前に、ミャンマーはこうした利点を最大限に活用することができます。ミャンマーの輸出の半分はASEAN諸国向けです。より巨大な市場へのアクセスも容易となるでしょう。一段と大規模な海外投資を呼び込むこともできるでしょう。

多角化も可能になるでしょう。現在、最大の成長の後押し要因は採取産業です。ガスだけで輸出収入の3分の1を占めます。

ミャンマーは、通信、製造、衣料、銀行といった多くの面で大きな可能性を秘めています。また、世界で最も魅惑的な美しい国で世界でも最ももてなしの心を備えた人々が住む国のひとつと言われるなど、観光でも大きな可能性を備えています。

金融の統合の深化もミャンマーの助けとなるでしょう。主要優先課題は、金融部門が生産性に富む経済を支え最も与信を必要としているところに与信を行き渡らせることができるよう、金融部門を拡大し深化させることです。現在、与信規模はGDP比でわずか10%と、世界でも最も低い数字となっています。貧困層の3人に2人が信用へアクセスすることができません。

金融の統合は、ミャンマーの生まれたばかりの金融部門が隣国のスキルと貯蓄を活用する助けとなるでしょう。そしてこれが、ミャンマーの人々に必要な雇用と経済の安全保障を生むビジネスへの融資に役立つでしょう。

つまり、統合の深化はミャンマーの道を照らし、この光はこれから長きに渡り輝き続けるでしょう。

最後に

最後になりました。ヤンゴン経済大学はミャンマー全土でも経済とビジネスのトレーニングを行うセンターのトップに位置します。

皆さんは、この国の最も優れた人々なのです。これは、ミャンマーという国と皆さんの同志であるこの国の国民の経済的潜在能力を引き上げるという、大きな責任を皆さんが負っているということを意味します。

安心してください。皆さんはひとりではありません。ミャンマーはひとりではありません。ミャンマーは、1952年にIMFに加盟するなど、長年にわたり国際社会の一員となっています。IMFはいつも皆さんと共にあることを、私は皆さんにお約束いたします。

国際社会が共有する見識と知恵に立脚した政策助言を通し、皆さんと共にいるでしょう。

我々は皆さんと共にあります—ミャンマーの人々の能力を強化し今後活力にあふれた経済を維持する上で必要な力強い制度・組織を構築するお手伝いを、我々の技術支援と研修を通し行います。我々は、皆さんが力強く包摂的な成長の確固たる基盤を築くなか、ともにあります。

皆さんが引き継ぐべき遺産を手にするために立ち上がるなか、我々は皆さんに仕え支援し、パートナーとして皆さんとこれから長く共にいることを、私は皆さんにお約束いたします。

ミャンマーは黄金の未来に満ちた黄金の国なのです。

ご清聴ありがとうございました—*che-zu tin-ba-deh!*